

第 4 回 館山市議会定例会会議録
(第 3 号)

1 昭和59年12月18日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1番 神田 守隆	2番 田沢 勝信
3番 山中金治郎	4番 日下 君敏
5番 川名 正二	6番 生稻 隆
7番 榎本 春光	8番 小宮 利夫
9番 福原 勤	10番 横溝 功
11番 飯田 義男	12番 石井 謀
13番 石井 昌治	14番 伊藤幸太郎
15番 渡辺 昭夫	16番 松下 正己
17番 近藤 好雄	19番 黒川 平治
20番 石井 武敏	21番 吉田勇治郎
22番 林 豊	23番 伊賀 多朗
24番 流山源次郎	25番 五十嵐 昇
26番 石井 正	27番 安西 益男
28番 安澤 徳順	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

第2号に同じ

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第3号)

昭和59年12月18日午前10時開議

日程第1 { 議案第66号 千葉県自治センター規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について
議案第67号 館山市乳幼児医療費支給条例の一部を改正する条例の制定について
議案第68号 市道路線の認定について
議案第69号 昭和59年度館山市一般会計補正予算(第3号)

- 日程第2 } 議案第70号 昭和59年度館山市国民健康保険特別会計補
正予算(第2号)
議案第71号 昭和59年度館山市国民宿舍事業特別会計補
正予算(第1号)
- 日程第3 請願第6号 租税教育の推進に関する請願書
- 日程第4 請願第7号 国鉄の「分割・民営化」に反対し、国鉄の存
続を求める請願書
- 日程第5 請願第8号 と畜場存続に関する請願書
- 日程第6 請願第9号 公費負担医療の充実、高額医療費の委任払い
の実施、国民健康保険料の引上げをおこなわ
ないことを求める請願書
- 日程第7 陳情第3号 土地価格の評価替えによる固定資産税の増税
を中止する陳情書

開 議 午前10時04分

○議長(石井 正君) 本日の出席議員数26名、これより第4回市議会
定例会第3日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第1、議案第66号乃至議案第68号の各議
案を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長(石井 正君) これより質疑に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員神田守隆君。御登壇願います。

(1番議員神田守隆君登壇)

○1番(神田守隆君) 議案の第68号市道路線の認定についてお尋ねを
いたします。

説明資料等によりますと、暖地園芸試験場の入口からエヌ・エム・ビー

・セミコンダクター社の工場の敷地内につくろうとする道路を市道として認定しようとするもののようではありますが、このような道路は本来企業の道路であり、市道として認定するのはなぜなのか、その理由をまず御説明をいただきたいと思います。

次に、この道路は山の尾根づたいになると思われますが、道路の建設にはかなりの費用がかかるものと思われます。その費用はどれくらいで、だれが負担をするのか、お聞かせを願いたいと思います。

第3番目に、市の市道認定基準についてであります。改めて市の市道認定基準について御説明をいただきたいと思いますのであります。今回のこの道路に関する認定は、これらの従来の基準からした場合には当てはまらないのではないか、例外ではないかというように感ずるわけではありますが、こちらの兼ね合いについての御説明を願いたいわけであります。

第4番目に、道路の安全性の問題についてであります。館山市の地震対策基礎調査報告書——市が依頼をいたしまして環境科学研究会において行われました報告書によりますと、山腹斜面の崩壊危険度分布図が示されています。これは館山市地震対策基礎調査報告書図表編の31頁にある図の5の5というものであります。これによりますと、今度道路を建設しようとする予定地は崩壊の危険度の最も高いA地域となっています。さらにこの報告書に沿って読み進んでみますと、暖地園芸試験場の東側にある樹園地等については、この地区は局部的に40度を超える急傾斜が含まれ、また谷底はため池で、これらと複合した災害への発展の危険性を有しているとしています。また、道路の建設については、山間地に道路をつくる場合は、盛り土、捨て土という地盤の軟弱性に加えて急勾配ということでは、どの法面工事を施さない限り崩壊は免れないという指摘があるわけです。市内で最も崩壊の危険性の高いA地域のところに崩壊を免れないという性格を持つ道路をつくるわけで、安全性には大変な危惧を持つものであります。この点についてどのような検討をしているのか。

以上、4点についてお聞かせを願いたいと思うわけであります。御答弁によりまして、再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

市道路線蕨台七曲線の認定についての御質問でございますが、山本地区に進出いたしました株式会社エヌ・エム・ビー・セミコンダクターから県に対し宅地等開発行為許可申請が提出されまして、県がこの許可をするにあたりまして開発区域内の計画道路の中を数本の里道が入っており、これを企業の道路といたしますと里道が分断されることになりまして住民に不便をかける結果となります、そこでこの道路を館山市において管理するよう県の指導もありましたので、今回市道認定をお願いするものであります。

次に、経費負担についてでございますが、道路及び関連付属物については一切企業の負担でございます。

また、道路の安全性についてでございますが、県が開発行為許可をするにあたり、都市計画法及び道路構造令等の厳しい指導がございます。市といたしましても今後十分指導していきたいと考えております。

なお、認定基準につきましては、経済部長より御答弁申し上げます。

○経済部長（吉岡政雄君） 認定基準につきましてお答えいたします。

これは、さきの議会でもって市道の路線認定ということが御質問を受けたわけでございますが、この中では4つの一応目安を示してあるわけでございます。まず、御存じだと思いますが、幅員は4 m以上のもの、2つ目に起点と終点が少なくとも幅員5 m以上の国道、県道あるいは市道に接していること、3つ目には公共施設等がありそのために利用されているものということで、4つ目には家屋が連なっておりまして集落を結ぶなど利用度の高い幹線道路であることを認定基準としております、ということでお答えしてあるわけでございますが、今回の路線認定をお願いいたします理由といたしましては、ただいま市長答弁いたしましたように、開発行為に対しましてやはり付近住民の交通を妨げてはいけないというところから、できるだけ早い時期に市道路線として認定するようにという県からの強い指導がありましたので、今回特別にこのようなことでお願いするわけでございます。

○1番（神田守隆君） 県の特別な指導だということで、従来の市の認定基準とは全く別個のことだということの御説明でありましたが、県の姿勢といえますか、そういう点で、従来こういうような県の方から、言ってみれば、市にしてみれば、市独自の立場からすれば認定基準にあたらないん

だけれども、特に県の方からということできたんだという御説明ですから、こういうことはたびたびあることなのか。非常に例外的な、県としても例外的なことだというふうに考えたらいいか。そこらはどういうふうにお考えですか。

県のこの問題に対する姿勢がどういう姿勢なのかということが、そういうことを通してわかるかと思いますので、その辺についての御説明をひとつお願いしたいと思います。

それから、私、道路の安全性の問題について大変危惧を感じるわけで、現地に行ってみましても大変峠みたいに両方に傾斜の大変きついところで、先ほど読み上げましたけれども、地震対策基礎調査の報告書の中でも40度を超えるようなところも一部はあるというような指摘もされているわけで、大変安全性で心配だ、しかもこの報告書の中では地震がきたら道路が崩れることは免れないと書いてあるわけです。そういう道路を市道として持つということは、もし事故があったり、あるいはその後の維持管理等というのは全部市の責任になる、こういう理解をしなきゃならぬじゃないかと思うんです。

そういう点で、建設費等について当面企業の方が負担するから心配ないんだ、それはわかります。しかし、今後の維持管理というのは大変な費用を市は覚悟しなきゃならぬのじゃないかな、こんなふう考えるんですが、どういうふうな検討をされているのかお聞かせを願いたいと思うわけでありま。

3つ目に、ここは道路の土地の所有関係から言うと、山本地区の共有地であるとか、いろいろ複雑に入り組んでいるかと思うんです。大体山本地区の共有地が大方占めるんじゃないかなというように推察するんですが、それにいたしましてもエヌ・エム・ビー・セミコンダクターが貸与を受けて——賃貸借ですね、それをさらに市道にするということでもありますから、通常市道にする場合には道路の権利関係では寄附をいただくというようなことが普通行われているようではありますが、そうした権利関係の面ではこの道路はどういうふうになるのか。土地の所有の権利関係ですね。この辺について御説明をいただきたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 認定しようとする道路が災害上危険性のある

箇所にあるというお尋ねでございますが、昭和54年度に実施いたしました地震対策基礎調査の中の斜面の崩壊と地滑り及び人工改造地の災害の項におきまして、特に人工改造地、造成宅地の場所として災害時に小規模な地滑りが生じやすい場所ということで何か所か指摘がございまして、その中に暖地園芸試験場の周辺が入っているわけでございます。そういう調査の中で箇所が指摘されたわけでありましたが、これにつきましてはやはり道路として使用する以上は、それらのことを考えながらやはり使用すべきだというふうに考えております。

○市長公室長（斎藤武男君） 補足を申し上げたいと思います。

林地開発許可申請の中で、許可基準ということで防災施設関係も含まれておるわけでございます。内容を申し上げますと、施行にあたって知事の指示に従い、防災措置を講ずるとともに、施行結果につき確認調査を受けなければならない、そういうことで防災施設関係につきましても大規模地震というようなことになりますとまた別でございましょうけれども、防災関係につきましてもそういうような県の指導を受けながら、さらに工事の結果につきましても検査を受けるということになっております。

○経済部長（吉岡政雄君） まず、3つの御質問の中の第1点でございますが、県の特別の指導ということでございますが、これは大企業の進出ということで、その間を取り巻く道路が里道等ございまして、一般住民の交通の便に妨げがあってはならない、そういうことから指導があったわけでございまして、館山市といたしましても今後このような企業が来てくださるということは非常に喜ばしいことではないかと思えます。そういうわけでさきにお示ししてございます4つの一応の目安というのがあるわけでございますけれども、そういうような状況のもとに県の指導があって、あくまでも付近住民の方々の交通の阻害にならないように、そういうところから指導がなされたわけで、今回お願いをしているわけでございます。

第2点目の今後の危険対策、これはどうかと申しますと、都市計画法によります23条——がけ面の保護という対策がとられなければならない、こういう規定がなされております。その基準によりまして設計等が行われ、工事が進められていくというふうに理解しております。

ちなみに、眺んで見ますと、風化の著しい岩では、擁壁を要しない勾配

の上限40度、擁壁を要する勾配の下限50度、または真砂土、関東ローム、硬質粘土その他これに類するものは、擁壁を要しない勾配の上限35度、擁壁を要する勾配の下限45度、このような手当てをしなければならない、こういうような基準がございまして、現対策には設計、構造上これだけはやらなければならないという、この指導のもとに工事が進められるものと思います。

また、権利関係でございしますが、この市道に該当いたします総面積は1万2672㎡になります。これで土地の権利と申しましょうか、所有者は、会社名義、また山本の区有地等があるわけでございます。完成後は一応契約書等を取り交わしまして、市道認定した場合にはやはり維持管理というものは市がもつべきではあるわけでございますけれども、当面まだ未完成でございますので、完成後覚書を取り交わしまして、何年間は企業側において全責任をもって維持補修をするというような条件を付していきたい、このように考えております。

○1番（神田守隆君） 県の方の問題についてはなかなか御答弁がむずかしいかと思ひます。また何かの機会にこうした事例が出るケースがあると思ひます。私はあまり聞いたことがない話なんで別の機会にまたお調べいただきましてお話しいただければと思ひます。

心配なことは、安全性の問題で、いま御答弁にありましたように工事の完成後の維持管理等についても契約を結びまして、企業の方において一定の期間ということで、管理費用についての負担をお願いするんだ、こういうようなお話がありました。それは大変結構なことだと思うんです。ただ、その内容がどうか、これから話し合いということになるんでしょうから、それはかなり詰めた内容をぜひ考えていただきたいと思うんです。

その点では、維持管理費用とともにこの安全上の問題を加味して——この指摘の中でもあそこが崩れると下がため池——大正池ですから、大正池に土砂が流出すると、大正池の方の被害からあそこが決壊したりというような形になるとこれは下流域全体に——ため池の決壊とまた大きなものに発展しかねない要素を持っているわけです。ですからそういう場合の危険に対してどういうふうに企業がこの問題についての負担をしていくのかというような議論もやはり十分入れるべきだということに考えるんですが、

その辺についてこれは市長さんのお考えをぜひ聞かしてもらいたいと思うんです。そうした特に安全性の問題については大切なことでもありますから、そういうことも踏まえて企業に対する姿勢をどうしていくのかというようなことでお聞かせを願いたいと思います。もちろん、この問題については県に対してもこういう問題があるんだということを十分指摘した上でいかなければならぬのじゃないかというようなこともありますので……。

それから、古茂口方面に抜けるような道路が説明書によるとあるんですが、現地に——いま工事に入っちゃってぐたぐたになっているからなかなかわかりませんけれども、前に歩いたところでは、この説明書によりますとかなりの道路があるんじゃないかという気がするんですけれども、現状は道路といえるような道路はないんじゃないかと思うんです。しかし、聞くところによりますと、あそこについては古茂口に抜ける、通過道路もつくるような話も聞いているわけで、そこいらについてはどういようなお考えなのかお聞かせを願いたいと思います。

○市長公室長（斎藤武男君） ただいまの市長の意見ということでございますが、林地開発許可申請の中で館山市長が意見書を付してございます。ただいま御指摘のような——具体的に申し上げます。雨水及び土砂の流出防止に万全を期すること、また農道、林道、農業用水等への土砂の流出等ないよう措置を講ずること、こういうようなことで意見書を県の方に付してございます。

それから、山本地区から古茂口に抜ける道路の関係でございしますが、開発の許可の出る時点でそういうような計画をいたしまして地元との折衝を行ってきたわけでございますが、なかなか地元の総意がまとまりませんで、御案内のとおりだと思いますが、9月の下旬以降になったわけでございます。したがって、当初開発許可の中にはそれが含まれておらなかったということで、今後2次計画の中に入ってくるかどうか、そういうようなことで現在あるわけでございます。

○1番（神田守隆君） 私は、市長さんの御意見を聞きたいんですが、いま意見書ということで出してある、だからそういう事故がないようにということとはわかります。それは当然なんです。それはわかっているんです。しかし、この中であることは、地震とか、そういう場合には道路は必ず

崩壊しますよというのが調査結果なんです。地震はいつ起きるかという話になるとこれはわかりません。だからそういうときの心配があるから、そういうことに対する費用の負担について先ほどお話がありましたように企業等と契約を結ぶということを行っているわけですから、契約の中でそういったものを企業に対してちゃんとやっていくのかどうかということなんです、私が聞いていることは。その点について市長さんはどういうふうにお考えですか。

○市長（半澤良一君） 今後、会社側と折衝する段階で煮詰めていきたいと思います。

○議長（石井 正君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（石井 正君） ただいま議題となっております議案第66号乃至議案第68号の各議案はお手元に配付の議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第2、議案第69号乃至議案第71号昭和59年度館山市一般会計及び各特別会計補正予算を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（石井 正君） これより質疑に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 議案の第69号一般会計補正予算の第3号につきまして御質問いたします。議案書に沿って行います。

11号道路用地の公有財産購入費ということで道路用地購入費1015万5000円が計上されているわけであります。山本地内の市道の改良に

伴う道路用地購入費並びに物件補償費ということで説明書の中であるわけですが、エヌ・エム・ビー・セミコンダクター社の関係で改良の必要が出たものではないかと思うのでありますが、この市道の改良の必要はという理由から出たものか御説明を願いたいと思います。

次に、14号民生費の中で社会福祉費館山市福祉作業所増築工事請負費ということで180万円の減額の補正が出ています。これは当初予算の中で見ますと1960万円ということで計上されていたものでありますが、180万円の減額は工事内容を当初予算の内容と比べまして、特に変更をしたとか特別の事情があるのかどうか。単純に入札の結果として安くなったというふうに受け止めてよろしいのかどうか御説明を願いたいと思います。

次に、16号清掃事務所ごみの建設工事請負費の減額補正710万円、それから最終処分場整備工事請負費712万4000円ということでかなりの減額の補正が計上されています。いずれも工事入札残というような説明になっておるわけですが、かなりの入札残が出ているというふうに見るわけで、何かこの辺についての事情——どういった特別の事情があったのかなかったのか。単純な受けとめ方でよいのかどうかお聞かせを願いたいと思います。

次に、17号であります。観光費の中で観光振興事業、城山公園公衆便所等建設工事請負費ということで2791万円が計上されています。説明書によりますと、城山に公衆便所を2つほどつくるようではありますが、どこにどのような便所をつくりますか。公共施設等、障害者用の便所等いろいろ論議がされておるわけでありまして。そうしたことも含めまして配慮がされておるのかどうか御説明をいただきたいと思います。

また、この公衆便所につきまして、土壌浄化法を取り入れている実例があるというふうに伺っております。水洗でも大変に管理が簡単であるというようなことで、かなりの評価を受けているような話も聞いているわけですが、まだ実験的な段階であることはもちろんであります、こうした問題も含めて、公衆便所周辺の環境との兼ね合いで考えてみてはどうかと思うんですが、こうした点についてはいかがお考えか。

次に、18号であります、学校建設費の中で西岬小学校の講堂防音改

築工事請負費 500 万円の減額補正であります。説明書によりますと、その財源内訳が大変変わっておるわけでありまして、2377万5000円の国庫支出金が減額、その一方で一般財源から1877万3000円ということで、国の支出が減った分市が一般財源で肩がわりするというような形になっているわけであります。国庫支出金が大幅に減ってその分一般財源でというのは補正で出てきているわけでありまして、どうした事情でそういうふうになっておるのか、この辺についての理由の御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

補正予算の総務費中、道路用地購入費についての御質問でございますが、エヌ・エム・ビー・セミコンダクターの進出にあたっては、都市計画法上の開発基準から開発区域内の主要な道路の幅員については6m以上12m以下となっており、またこの道路は開発区域外の幅員9m以上の道路に接続していることが原則になっております。したがって、暖地園芸試験場のところから国道128号までの間の市道については、原則として9m以上の道路幅員が必要でございますが、しかし県の開発行為の許可条件として直ちに全区間を9m道路にすることは困難との判断から当面300mごとに待避所を設置することで許可になっております。本市道につきましては一部が通学道路になっており、今後交通量も増大することが予想されますので、市民の交通安全対策の上から道路管理者でございます館山市が当該用地を買収し、5カ所の待避所を設置するとともに将来道路の拡幅を計画するものでございます。

次に、福祉作業所増築工事請負費の減額補正でございますが、基本的には増築面積等に変更はございませんが、当初計画いたしました既存建物と増築建物をわたり上げ屋で接続する方法を、今後の利用の便を考えまして直接接続に変更したため180万円の入札残が出たものでございます。

次に、清掃事務所建設工事請負費、最終処分場整備工事請負費、両方の減額補正でございますが、いずれも入札残によるものでございまして、ほかに理由はございません。

次に、城山公園公衆便所等設置工事費についてでございますが、その工事内容は、城山公園入口駐車場内に1棟、通称千畳敷に1棟、ともに鉄筋コンクリート造り平家建て、パッキ式水洗浄化槽で、ほかに公園内に13基のベンチを設置しようとするものでございます。

なお、身障者用便所も併設をいたします。

現在、公園内に開設している場所については、国の補助がつきませんので、県の地域観光振興事業において事業を実施しようとするものでございまして、総工費2791万円、そのうち3分の1の県の補助を見込んでいるわけでございます。

土壤浄化法での工事施行の御提言でございますが、城山公園駐車場入口の便所につきましては、周囲を駐車場として舗装し、また千畳敷につきましては将来日本庭園を計画しておりますので、その敷地が狭くなってしまうので、困難であろうと考えております。

なお、市といたしましては、西長田に建設をいたしました環境保全公社の事務所、また現在建設中の清掃事務所につきまして、し尿及び生活水を合併処理した後、土壤浄化法を採用しております。

次に、西岬小学校講堂防音改築工事請負費についてでございますが、西岬小学校講堂防音改築工事請負費500万円の減は、入札残によるものでございますが、これに対する補助金減額分は153万3000円でございます。そのほかに旧講堂の天井高4.8mに対しまして現在新築中の講堂は体育館としての機能上8mの高さにしてございますが、今回防衛庁の補助基準改定によりまして天井高は5.75mということになり、それ以上のその差2.25m分につきましては財源としての補助金2224万2000円が減りましたので、この分市の負担がふえたわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○1番（神田守隆君） 道路用地の関係であります。県の開発行為の許可の関係でこうした道路の改良が出てきたということですから、これはエヌ・エム・ビー・セミコンダクターの進出に伴う道路の改良の必要というふうに理解をいたします。

だとすれば、こうした改良の費用というのは、本来進出してきた者が負担してしかるべきじゃないか、こういうふうに思うんですが、どういうふ

うにこの費用の問題については話が進んでおるのか、どういうふうになっておるのか。現在もかなり工事が進んでおりまして、現在の道路自身大分ダンプ等の搬入によって道路が傷んでいるというような現状もあります。そうしたような処理というものも、市道ですから市の負担ということになるかと思うんですが、なかなか割り切れないものを感じるわけでありまして、この辺について市としてはどういうふうに考えておられるのか、その点についてお答え願いたいと思います。

福祉作業所の関係については、わかりました。

清掃事務所の関係についても、単純な工事入札残ということでありまして……。

最終処分場の整備工事についてですが、これは予算金額では幾らですか。全体の数字的な問題は——それをお示しいただきたいんですね。712万4000円という減額補正というのはかなりの金額に率としてはなるんじゃないかと思うんですが、その辺でどうなんですか。あまりに単純な工事入札残だということではちょっと納得できかねるんですが、その辺について数字的な御説明をお願いしたいと思います。

それから、城山公園の便所の関係については、わかりました。障害者用の便所もつくるといいますから、それはそれとして評価もいたします。

また、現在、土壌浄化法については、市は現在取り組んでおるということですから、こうした土壌浄化法が一つのタイプとしてどのような結果や何かを持ってくるのか非常に関心もあることでありますので、市としても十分それについての配慮をお願いしたいということをお願いしておきます。

それから、西岬小学校の講堂防音改築工事の問題であります。いまの御説明ですと、防衛補助金の補助基準が改定になったということで、天井の高さが8mだったのが7.5mというようなことで、そのために補助の対象にならなかったんだということでもあります。どうもそれじゃだまされたんじゃないかという受け止め方になるわけです。そういう話というのは当初予算なりの段階で予測できなかったのかどうか大変不思議な気がするんですが、こういう形で結局は補助金を出しますよということで始めたことがいや出せませんよということで自分でお持ちなさいということでは、

これでは本当にだまされたんじゃないですかね。これについてどういうふうにお考えですか。

○市長公室長（斎藤武男君） まず、1点目の道路用地購入の関係でございますけれども、工場建設に伴います宅地等の開発行為に係る公共施設の整備の関係についてでございますが、都市計画法の第32条の規定によりまして公共施設の管理者と事業者が両方が協議いたしました結果、このような形で処理をさせていただくということでございます。

○民生部長（鈴木 力君） 最終処分場の整備工事の関係でございますが、9660万円でございます。

○教育長（福原 修君） 西岬小学校の講堂の建設については、防衛庁からだまされたんではないかというような御指摘でございますが、昭和52年度に館山小学校の講堂、屋内運動場をつくる際、天井の高さが7.7mまで認められたものですから、本年度も8mぐらいはいいだろうというような見積もりで建築を考えたわけです。

○1番（神田守隆君） 道路の関係ですが、協議の結果こういう形になったということですから、市が了解を与えたという、了承したというふうに理解せざるを得ないんですが、企業の方では全く寄付とかそういったものはない、この道路に関しては。市に対しては、費用の負担は全部市でやるもんだというふうに協議が整ったというような理解でいいんですか。そういうふうに理解していいのかどうか。それで、それは市としては積極的に企業誘致ということだからそういうようなことで特に便宜を与えたんだというような、そういうふうに考えて対処したんだというふうに理解していいのか。

それと、西岬小学校の問題で、だましたということは大変言葉としてはきつい言い方なんですけど、見込み違いと言ったらいいのかと思いますが、全体として、いまの動きとしては——従来7.7mまで認められたから今度は8mくらいまでだいじょうぶだろうというような見込みを立てたというのは、従来はそういうふうに徐々に補助金の対象の枠が拡大されていった、そういう歴史的な経過があったんだと、けれども、今回それが急に変わった、国の補助基準が大変に厳しい方向に向かったんだというふうな大きな政策上の変更があったんだ、そんなふうな理解で、そういう点では市

の見込みが違ったんだ、こういうふうに理解をしていいのかなど。その辺についてお聞かせを願いたいと思います。

○市長公室長（斎藤武男君） 第1点目でございますけれども、企業とそれぞれ協議の結果、このような形で願います——このような結果で、市が買収してやることになったわけでございます。

○教育長（福原 修君） 補助金の出す範囲が厳しくなったんじゃないか、こういうような御指摘でございますけれども、これは国の方のことでございますので、私の方からは厳しくなったとか何とかは言えないと思います。

○1番（神田守隆君） 終わります。

○議長（石井 正君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（石井 正君） ただいま議題となっております議案第69号乃至議案第71号の各会計補正予算については、お手元に配付の議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

請願書の上程

○議長（石井 正君） 日程第3、請願第6号租税教育の推進に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（石井 正君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（25番議員五十嵐 昇君登壇）

○25番（五十嵐 昇君） ただいま請願についての御朗読があったわけでございますが、紹介者を代表いたしまして御説明を申し上げたいところ

存ずる次第でございます。

請願者並びにそのあて名につきましては、ただいま朗読のありましたとおりでございます。満場の皆さま方の御賛成のもと採択されますことを特にお願ひ申し上げるものでございます。

趣旨につきましては、納税がいかに大切であるかということにつきましては、周知徹底されておることとは思いますが、ともすると正直者がばかを見るというふうな結果にも陥っておるのではなからうか。納税意識の高揚は国の発展並びに地方団体の発展に大きく連携するものでございまして、当市におきましても滞納額が非常に多く、事業の遂行に大きな支障を来しておる現状を見ますときに、大変この請願が意義あるものではないかという信じてやまないものでございます。

ただいま御朗読のとおりでございます。われわれ小さいときには国民としての三大義務といたしまして、兵役の義務、納税の義務、教育の義務、この3つが大きいうたわれておったのでございます。戦後におきましては、ともするとこの三大義務の納税の義務が怠りがちである。われわれの脳裏から少し離れておるのではなからうか。この際、覚醒的な意味を持ちましても納税の道義、高揚についてここで認識を新たにしなければならない時期になっておるのではなからうかと存ずるのであります。

この請願書の概要につきましては、ただいま御朗読のとおりでありまして、重ねて申し上げるならば、租税教育に要する教育時間数を特に増加いたしまして、中学校の指導課程——カリキュラムにこの税に関する知識の普及徹底についての事項を組まれてもらいたい。それから、なおこの件につきましては衆議院の議長、参議院の議長に対してしかるべく配慮方お願いしてあるということでございます。その徹底について特に中学校の教育過程——カリキュラムの重視ということについて配慮されたい。中学校の社会科の学習指導要領に租税の意義、効用等納税道義の高揚について特にこれを組み入れまして国民の総反省をすべきではなからうか。そういう点について特に当市議会において御配慮いただきたい、こういう請願者の意思表示でございます。

われわれが、やはり経済的な根拠なくしてはあらゆる事業が停止するということは明白な事実でございます。この時期におきましてこういった

請願が出ることもこれ館山市民の納税に対する意識が非常に盛んであると
こう私は信ずるものでございます。

以上、申し上げまして、簡単ではございますけれども、紹介議員として
御説明申し上げ、皆さま方の絶大なる御支持、御支援をお願い申し上げ、
採択されることを特にお願ひ申し上げるものでございます。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本請願書につきましては文教民生委員会に付託を
いたします。

請願書の上程

○議長（石井 正君） 日程第4、請願第7号国鉄の「分割・民営化」に
反対し、国鉄の存続を求める請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（石井 正君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めま
す。

（2番議員田沢勝信君登壇）

○2番（田沢勝信君） 国鉄の「分割・民営化」に反対し、国鉄の存続を
求める請願書の紹介議員として御説明を申し上げます。

公共交通を使命とする国鉄線並びに国鉄バスの存在は、当館山市におい
て地域経済や教育、福祉の発展に長く寄与してまいりました。特に、国鉄
バスは当地域の老人や通勤、通学生を初め、車を運転することのできない
住民の足としてなくすることができないものでありますが、国鉄再建監理委
員会から出された提言の中には、地方ローカル線の廃止、国鉄バスの分離
というものがうたわれているわけです。

私は、地方の公共交通を維持、発展させることをお願いする趣旨に賛同

いたしましてここに請願を紹介する次第であります。どうか満場の御賛同を賜りたくお願いいたしまして、趣旨説明にかえさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本請願書につきましては総務委員会に付託をいたします。

請願書の上程

○議長（石井 正君） 日程第5、請願第8号と畜場存続に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（石井 正君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（22番議員林 豊君登壇）

○22番（林 豊君） 請願理由の説明を行います。

昭和10年に館山市に開設されました館山のと畜場は、約半世紀にわたって地域産業の発展に大きく貢献をしております。来年3月末日をもって廃止、閉鎖されようとしております。

県南の基幹産業である農業、なかんずく酪農業は、その昔、丸山町峯岡に県立種畜場が創設されたことを見ても明らかなおりと、遠く明治の時代より私どもの先輩諸賢がこの地安房になりわいを興し伝承されてきた産業であり、酪農王国として安房の特産業として栄え、全国に指導的な役割を果たしてまいりました。

その関連事業として当市に開設されました処理施設である館山と畜場は、安房地方にとっては必須の公営施設であると考えております。

この施設が、ここ5、6年間の経営不振を初め、諸般の事情によって廃止されることは県南の地域産業にとって非常に大きな損失であると言わざるを得ません。

産業の振興、福祉の増進は、行政最大の責務であり、最近いわゆる地方の時代を迎え「村おこし」「ふるさとおこし」等と称して全国各自治体は特産業、特産品の開発に力を傾注をしております。

翻って、わが館山市では、もし、59年度をもってこのと畜場を廃止することになれば、後継の手段、方途も全く決定しないまま閉鎖されることになり、安房地方畜産業界に及ぼす影響は深刻なものがあると思います。また、一たん廃止されれば再びこれを復活することは不可能であると聞いております。

このような現況にかんがみ、よく将来の展望の上に立って慎重なる考慮を払い、百方手段をつくし、可及的速やかに解決の方法を決定し、円滑な受け渡しができるまで経営を存続されるよう生産団体、関係者2600余名の署名をもって請願をするものであります。

以上、請願理由の説明といたします。よろしくお願いします。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本請願書につきましては文教民生委員会に付託をいたします。

請願書の上程

○議長（石井 正君） 日程第6、請願第9号公費負担医療の充実、高額医療費の委任払いの実施、国民健康保険料の引上げをおこなわないことを求める請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（石井 正君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 公費負担医療の充実、高額医療費の委任払いの実施、国民健康保険料の引上げをおこなわないことを求める請願書について御紹介をいたします。

請願の趣旨については、ただいま読み上げましたとおりでございますが、だれでもがお金の心配なしに治療が受けられるこの方向に進むことこそが現在進むべく医療制度の本来のあり方ではないかと考えます。現在進んでおります医療保険の改正の方向、すなわち老人保健法の改悪、あるいは健康保険法の改悪と相次ぐ法の改正はこうした医療本来のあり方とは全く逆行するものだと言わざるを得ません。

この請願の趣旨は、住民の身近な自治体である地方自治体がこうした現況の中にあって公費負担医療の充実を図る等、お金の心配なしに住民が治療を受けられるようにする、こういった趣旨でございます。地方自治体がこうした方向で国の方向を是正し、医療を本当にその本来のあり方の方向に正していくのがいま大事だと思うわけでありまして。こうした地方自治体としての努力の方向を示そうとするのがこの請願の内容だと理解するわけでありまして。

当館山市においては、老人医療あるいは乳幼児医療、母子、父子の医療、それぞれ公費による単独事業を実施しているところでございますが、さらにその充実を図ること、あるいは高額医療費の委任払い制度——これは小さな自治体ではなかなかむずかしい問題もでございます。府県単位で進めるというようなことも当然重要なことであります。しかしそうした方向について市町村が大きく足並みをそろえていくこと、このことも大事だろうと思います。

また、国民健康保険の保険税が大変に高い、これはこれまで何度も指摘してきたところでございますが、こうした引き上げを行わない、こういうことが当面大変求められている重要なことではなかろうかと思っております。

以上の点を指摘をいたしまして、この請願がぜひとも御採択をいただきますよう心よりお願いをいたしまして、請願趣旨の紹介とさせていただきます。

ます。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本請願書につきましては文教民生委員会に付託をいたします。

陳情書の上程

○議長（石井 正君） 日程第7、陳情第3号土地価格の評価替えによる固定資産税の増税を中止する陳情書を議題といたします。

陳情書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本陳情書につきましては総務委員会に付託をいたします。

延 会 午前11時23分

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって本日の会議はこれにて延会することに決しました。

なお、明12月19日及び20日は委員会での議案審査のため休会、次会は12月21日午前10時開会といたします。

その議事は、議案第66号乃至議案第71号等に係る各委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議といたします。

●本日の会議に付した事件

- 1 議案第 6 6 号乃至議案第 7 1 号
- 1 請願第 6 号乃至請願第 9 号
- 1 陳情第 3 号